



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-56

(2025. 8. 15)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の経費

ポイント

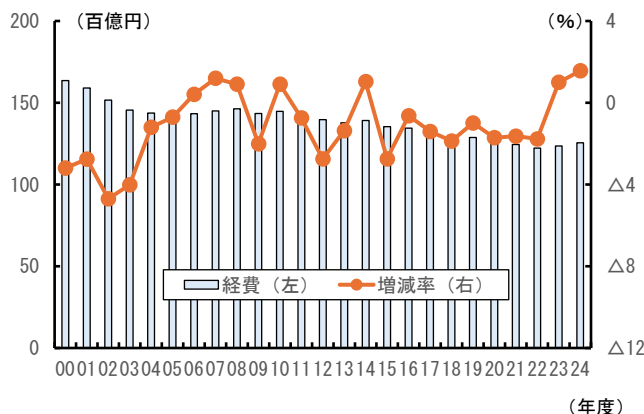
- 2024年度の信用金庫の経費は、前期比1.5%、192億円増加の1兆2,542億円となり、2年連続で前年度を上回った。
- 2000年度の経費と比べると23.3%減少となるが、その内訳をみていくと、人件費が24.7%減、物件費は24.0%減であった。
- 2024年度の地区別の経費は、全11地区で前期比増加しており、なかでも四国、北海道、九州北部の増加が目立った。
- 2024年度の信用金庫別の経费率（構成比）は、①0.8%未満が42.9%、②0.8%～1.0%が41.3%、③1.0%以上は15.7%となった。

1. 全国状況

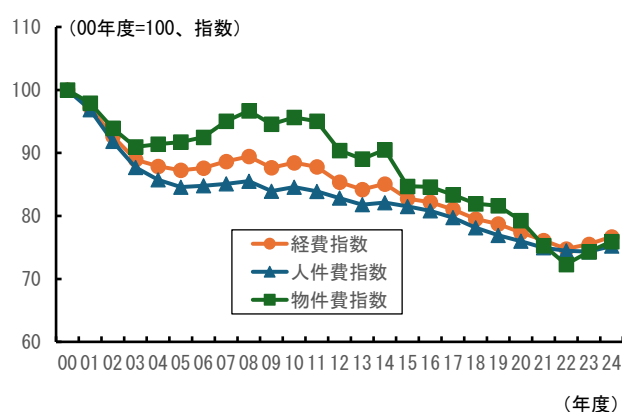
2024年度の信用金庫の経費は、前期比1.5%、192億円増加の1兆2,542億円となり、2年連続で前年度を上回った（図表1）。店舗統廃合などの経費削減への取組みや預金保険料の減少により、2000年度比で3,811億円、23.3%減少している。ただし足元では物価高騰や人件費の上昇、更には「金利のある世界」の到来による預金利息の増加を受け、信用金庫の経費は増加に転じている。

経費の内訳をみていくと、人件費が前期比1.2%増加の7,591億円となり、9年振りに増加に転じた。また物件費は前期比2.2%増加の4,474億円となり、2年連続で前年度を上回っている。2000年度からの推移を比較すると、経費が23.3%減に対し、人件費が24.7%、物件費は24.0%それぞれ減少した（図表2）。社会情勢を勘案すると2025年度以降も経費の増加が予想されよう。

(図表1) 経費の推移



(図表2) 人件費・物件費等の推移



(備考) 図表1から4まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度の地区別の経費は、全 11 地区で前期比増加しており、なかでも四国(5.8%増)、北海道(2.8%増)、九州北部(2.2%増)の増加が目立った。また 2024 年度の経費率は南九州の 1.04%が最も高く、九州北部の 0.96%、中国の 0.87%が続く。

2000 年度との比較では、北陸が 40.2%減だった一方で、四国は 4.9%減に留まるなど、地区によって経費の減少の程度に開きがみられる。

(図表 3) 地区別の経費

(単位：億円、%)

地 区	00年度	10年度	20年度	23年度	24年度	00年度比		経費率	人件費率	物件費率
						増減額	増減率			
北海道	816	718	612	595	612	△ 204	△ 24.9	0.70	0.39	0.27
東 北	755	630	514	487	495	△ 259	△ 34.3	0.82	0.48	0.31
東 京	3,113	2,636	2,356	2,350	2,358	△ 755	△ 24.2	0.82	0.49	0.29
関 東	3,156	2,762	2,431	2,351	2,392	△ 763	△ 24.1	0.79	0.48	0.27
北 陸	533	434	323	313	318	△ 215	△ 40.2	0.78	0.45	0.30
東 海	3,010	2,798	2,454	2,342	2,386	△ 624	△ 20.7	0.68	0.42	0.23
近 畿	3,018	2,740	2,468	2,448	2,483	△ 535	△ 17.7	0.73	0.44	0.26
中 国	813	754	609	585	595	△ 217	△ 26.7	0.87	0.55	0.29
四 国	287	272	250	258	273	△ 14	△ 4.9	0.84	0.43	0.36
九州北部	339	290	266	263	269	△ 70	△ 20.6	0.96	0.60	0.32
南九州	478	401	343	328	330	△ 147	△ 30.8	1.04	0.64	0.35
全 国	16,354	14,465	12,656	12,350	12,542	△3,811	△ 23.3	0.77	0.46	0.27

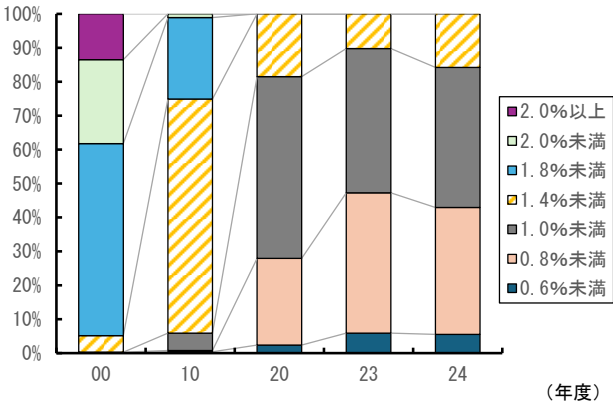
(備考) 沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

2024 年度の信用金庫別の経費率（構成比）は、①0.8%未満が 42.9%（109 金庫）、②0.8%～1.0%が 41.3%（105 金庫）、③1.0%以上は 15.7%（40 金庫）となった（図表 4）。2024 年度の経費率は 0.77%だったが、中央値は 0.82%となる。最も低い信用金庫で 0.4%台（所在地区：東海）となった一方で、1.3%台も 2 金庫（同：東京、九州北部）あった。

2000 年度の構成比をみると、1 %未満は 0.2%（1 金庫）に過ぎず、2 %以上は 13.4%（50 金庫）あった。経費支出を抑えるなか、預金平残が順調に伸びたため、この間の経費率の低下は急速に進んだと考えられる。

(図表 4) 信用金庫別の経費率
(構成比)



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。